

■一枚のきものを最後まで

衣服を家庭で手作りする事が一般的だった時代、生地は昔から貴重なもので大切に使われてきました。ひとつの反物から作ったきものは、様々な姿に作り変えられながら役目を全うします。普段着で楽しみ、痛んだところを直し着続けたり、羽織や野良着に作り変えて着ることもありました。縫い目を解き、一枚の布に戻して手ぬぐいや雑巾、おしめに使われ、時には明かりの燃料にし、生地が無くなるまで大切に使い切りました。



▲野良着（当館蔵）

着る

■野良着

野良着とは、仕事着とも呼ばれ農作業の時に着る動きやすさや、寒さ暑さなどから身体を守る役目を持つ機能性を重視して作られたものです。ここで紹介する野良着は藍染生地が使われています。藍染には、抗菌効果や消臭、虫よけ効果があると言われ、野良着に好まれました。また、この野良着の特徴は袖にも見る事ができます。この袖は、筒袖だと思われそうですが、袖口に向かって少しすぼまるように作られています。袂が無いため、野良仕事や作業の邪魔になりにくいことが特徴の袖です。そして裏返してみると、袖下の部分は切り捨てずに縫い込んで前袖に縫い付けています。いつか解いて一枚の生地としてまた別の何かに作り変えて使うことも考えていたのかもしれませんが。